

## 事例概要

氏名：神田道子（仮名）昭和10年12月7日生 83歳 女性

疾病：アルツハイマー型認知症、高血圧

住環境：戸建て、バリアフリー住宅

経済状況：遺族年金、貯金

家族状況：夫は8年前に他界。ひとり暮らし。長女が近隣に住んでおり頻回に訪問。長男は他県に住み年に数回訪問。キーパーソンは長女で協力的。

生活歴：4人兄弟の長女として出生。24歳で結婚、子どもは2人。夫は会社員で定年まで勤め、定年後は温泉旅行や軽体操を一緒に楽しんでいた。夫亡き後も友人たちと同様な暮らしをしていたが、2年前から日にちを間違えたりして参加しなくなり、以前は料理が得意だったが家事もできなくなった。介護認定を申請、要介護1と認定され、訪問介護サービスとデイサービスを利用するようになった。訪問介護は週3回利用している。

## ADL

起き上り：ベッドの柵につかまって起き上がる。立ち上がりもベッド柵使用。  
立ち上がり時ふらつくことがある

歩行：近くにある物につかまることがあるがほぼ自立歩行、屋外は一部介助

排泄：自立しているが、間に合わないことがありトイレの汚れが目立つ。下着が濡れた場合は着替えている

更衣：ほぼ自立であるが季節に合わない着方をしているときもある（季節の変わり目）

入浴：デイサービス利用。一部介助。家では家族の見守りで週1回入浴

移動：ほぼ自立、車への乗降は声かけ

食事：ほぼ自立

口腔：部分入歯、歯磨きは自立

IADL：買い物、調理、掃除は一部介助。買い物は近くのコンビニで弁当や菓子類を購入することはできる。月に1~2回スーパーへ娘と行く。調理は以前鍋焦がしがありガスレンジは使用していない、電子レンジで温めることはできる。掃除はせず、室内は雑然としている。衣類の整理は娘がしている。衣類やタオルをあちこちに置き散乱状態。洗濯は、洗う、干す、たたむはほぼ自立、たたんだ衣類を置いたままにするので娘が整理する。ゴミ出しは長女が行っている

健康管理：甘い菓子類が好き、食事もパンや麺類を好む。手軽に食べられるものを身近に置いてテレビを見ながら食べていることが多い。咀嚼や嚥下は支障ない。歯は部分入歯で手入れはほぼ自立。整髪は自立、年に数回美容院でパーマをかける。爪切りは娘。服薬残っていることが多い。

コミュニケーション：

視力・聴力は支障ない。意思表示はできるが言ったことを忘れてしまう。子どもの頃の話しや子育ての話が多い。テレビは選んでみているのではなくつけっぱなしであるが、旅番組や健康に関するものは興味がある。日常会話はほぼできる。

認知と行動：

日常生活はほぼ自立しているが、物忘れや見当識障害があり、声かけや見守りが必要で、娘の支援でひとり暮らしができています。家の中は雑然としており、足の踏み場がないような状態になってしまうので、生活支援は欠かせない。手紙や文書なども支援が必要。鍵のかけ忘れ等もあり、現在は長女が電話で対応している。

家族の介護：

長女が近隣に住んでいて協力的であり頻回に訪問し支援している。長男とも良好な関係。子どもたちは良く連絡しあっている。サービスを利用しながら考えていきたい。長女はパートで仕事しているが、夫の両親も近くに住んでいるので、双方を支援していきたい。長男は仕事があるので直接的な支援はできない状況。

社会交流：近隣とは昔からのお付き合いがある。これまでの友人と食事などに出かけることがある。趣味はカラオケ、散歩など。月に数回カラオケに誘われ楽しんでいる。兄弟や親戚とのお付き合いも多く、よく出かけている。最近、集まりの日にちを間違えることが数回あった。